

研究プロジェクト「交渉学の可能性－新しい世界の関係構築と紛争の予防のために」
Research project: The possibilities of the research on negotiation

実施期間： 2010～2012年度（3年間）

Term of the project: 2010-2012 fiscal years (3 years)

研究代表者： 松岡 博 大阪大学・帝塚山大学名誉教授

Project leader: Dr. Hiroshi MATSUOKA,

Professor emeritus of Osaka University and Tezukayama University

研究目的要旨：

本研究は、交渉学が新しい世界を構築し、紛争を予防、解決するために、何をなし得るかを明らかにすることを目的とする。本研究は、また、その目的を達成するための新しい交渉理論・交渉方法を提案する基礎的な原理をも明らかにしようとするものである。

本研究により、力ではなく、対話と説得による交渉を中心とする新しい世界を構築すること、そして世界と人類が直面する様々な困難な課題を解決する新しい交渉学の可能性（芽）を切り拓くことができる。このような交渉学の研究は、話し合いの伝統と平和的な紛争を国是とする日本から、平等互惠を基礎とした平和で豊かな新しい世界を構築することのできる、新しい交渉理論の提案に向けた基礎的原理を明らかにする試みであって、日本が学術の世界でなしうる貢献であると考えられる。

研究目的：

①背景：

現代社会では、価値観の多様化、経済格差の拡大などの様々な要因のために、国際的にも国内的にも紛争・摩擦・対立が頻発している。このような紛争・摩擦・対立を力によって解決するのではなく、対話と説得による交渉により、合意を形成し、平和的に解決すること、そのための学術（交渉学）の発展が強く求められている。

本研究は、交渉学が新しい世界を構築し、紛争を予防、解決するために、何をなし得るかを明らかにすることを目的とし、その目的を達成するための新しい交渉理論・交渉方法を提案する基礎的な原理をも明らかにしようとするものである。

②必要性：

本研究により、力ではなく、対話と説得による交渉を中心とする新しい世界を構築すること、そして世界と人類が直面する様々な困難な課題を解決する新しい交渉学の可能性（芽）を切り拓くことができる。このような交渉学の研究は、話し合いの伝統と平和的な紛争を国是とする日本から、平等互惠を基礎とした平和で豊かな新しい世界を構築することのできる、新しい交渉理論の提案に向けた基礎的原理を明らかにする試みであって、日本が学術の世界でなしうる貢献であると考えられる。

③方針：

・交渉学の現状分析 まず、交渉学の現状分析を行う。交渉学はどのように発展してきたか。その課題は何か。どのような方向に向かおうとしているのかを明らかにする。

その際、交渉のつぎのような点についても明らかにしたい。人と人との関係、国家と国家との関係を結ぶのも交渉である／自由社会での経済活動や市場も交渉から成り立つ／交渉によって新しい取引や関係が構築される／話し合いの伝統と平和的な紛争を国是とする日本から平等互惠を基礎とした平和で豊かな新しい世界を構築することのできる新しい交渉理論の可能性（芽）が存在すること／などである。

・交渉理論の研究 つぎに現在、有力に提唱されている交渉理論を、主として対立競争型か問題解決型かという視点から取り上げ、その特徴、意義、実践性などについての評価、検討をおこなう。その際、特にハーバード・ロー・スクールのハーバード交渉学研究所で開発された「原則立脚型（利害分析型）交渉法」、さらに最近の「情を利用する」理論にも考慮を払いたい。

・理論と実践の融合 交渉は、外交交渉、ビジネス交渉、労使交渉、家族間交渉、裁判と交渉、ADRと交渉、立法と交渉など様々の形態をとり、また用いられる場面も様々である。理論としての交渉学は、一般論としての普遍性をもつとともに、それぞれの交渉形態に柔軟に対応できるものであることが必要である。そして何よりも実際の交渉でうまく機能するものでなければならない。この点を明らかにしたい。

・諸学の総合としての交渉学の可能性 交渉学は総合的な学である。法学、政策学、経営学、心理学、社会学、論理学、コミュニケーション論などの様々な学問の知見を総合的に取り入れる必要がある。それをどのように行うべきかを検討したい。

・交渉教育・研修と人材養成の重要性 交渉力を高めるにはどうすればよいか。経験によって学ぶことはできるが、系統的な学習も必要である。効果的な交渉教育、人材養成のあり方について検討したい。

Objectives:

The main objective of this research project is to clarify what the research on Negotiation can contribute to construct a new world order, and to prevent and resolve various kinds of disputes successfully. In order to achieve the objective, the research project aims at proposing fundamental principles of new theory and practice of negotiation.

キーワード： 交渉学、学際的研究、理論・実践の融合

Key Word: Negotiation, Interdisciplinary Research, Fusion of Theory and Practice

参加研究者リスト：15名（◎研究代表者、□幹事）

氏名	職名等
◎松岡 博	大阪大学・帝塚山大学名誉教授
D.M.アラカキ	大阪学院大学経営学部教授
大澤 恒夫	桐蔭法科大学院教授
太田 勝造	東京大学大学院法学政治学研究科教授
柏木 昇	東京大学名誉教授・中央大学法科大学院フェロー
金 美善	大阪大学大学院工学研究科特任助教
□高杉 直	同志社大学法学部教授
田中 成明	国際高等研究所副所長
□野村 美明	大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
服部 高宏	京都大学大学院法学研究科教授（2010年度途中から参加）
平井 啓	大阪大学大型教育プロジェクト支援室統括マネージャー補佐
平井 亮輔	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
ダニエル・H・フット	東京大学大学院法学政治学研究科教授
森下 哲朗	上智大学法学研究科教授
吉川 英一郎	同志社大学商学部教授

研究活動実績：

2010年度：

まず、交渉学の現状分析を行い、交渉学はどのように発展してきたか。その課題は何か。どのような方向に向かおうとしているのかを明らかにしようとした。また現在、有力に提唱されている交渉理

論を、主として対立競争型か問題解決型かという視点から取り上げ、その特徴、意義、実践性などについての評価、検討をおこなう。特にハーバード・ロー・スクールのハーバード交渉学研究所で開発された「原則立脚型（利害分析型）交渉法」に注意を払った。

7月の第1回研究会では、

まず、研究代表者松岡博国際高等研フェローから「研究プロジェクトの目的・趣旨・研究方法・計画」をテーマに本研究プロジェクトの基本事項について説明があり、その後、質疑応答を行った。

ついで野村美明大阪大学教授から「交渉とディベートと対話」をテーマに報告があり、活発な質疑応答がなされた。

最後に話題提供者である西川善文三井住友銀行顧問から「難しい交渉を成功させるために」というテーマで報告があった。銀行合併や外資ファンドとの交渉経験を交えて、難しい交渉を成功させるために考慮すべき点についてのコメントがあり、その後、活発な議論がなされた。

11月の第2回研究会では、

まず、話題提供者である藪中三十二外務省顧問（前外務事務次官）から「外交交渉の要諦」というテーマで報告があった。まず長年の外交交渉の経験を踏まえて、一般論として外交交渉の6つの要諦を（「敵を知り、己を知る」、「互いを理解し、信頼関係を」など）を述べた後、北朝鮮との交渉、日中漁業交渉、日韓漁業交渉を取り上げた。その後活発な質疑応答があった。

つぎにダニエル・H・フット東京大学教授からは、「アメリカのロースクール教育における交渉教育の位置づけおよびハーバード・ロー・スクールのカリキュラム改革」というテーマでロースクールにおける交渉教育の現状とハーバード・ロー・スクールにおける問題解決プログラム（交渉教育を含む）についての詳しい報告があった。活発な質疑応答があった。

2月の第3回研究会では、

まず、話題提供者の小島順彦三菱商事会長から「国際ビジネス交渉について」というテーマで報告があった。液化天然ガスに関する二つの国際ビジネス交渉、①サハリン2プロジェクト（プーチン大統領との交渉）、②インドネシアにおけるドンギスノロ・プロジェクトにおける交渉経験の報告があり、最後にまとめとして、国際ビジネスにおける利害調整型交渉についての全方位交渉の重要性（実務レベルでの交渉の積み上げ、外交交渉の側面支援、トップレベルの交渉と最後のひと押し）を指摘し、最後は信頼関係と結んだ。

つぎに森下哲朗上智大学教授から、「法学部・法科大学院における交渉教育・研究の現状と課題」という報告があった。日本の交渉教育の現状については、上智大学における例を中心にハーバード流交渉術を軸にした興味深い取組を紹介した。課題としては、応用のきく基礎理論の開発の必要性が強調された。優れた教育の裏付けには、優れた研究が必要であり、この点からみると、日本の現状は交渉を専門とするスタッフや骨太の研究が不足しており、教育と実務を結びつけた研究の場が必要であるとの指摘があった。

両報告に対して、ともに活発な質疑応答があった。

研究会開催実績：

研究会

第1回 2010年7月2日～3日（於：高等研）

第2回 2010年11月26日～27日（於：高等研）

第3回 2011年2月25日～26日（於：高等研）

幹事会

第1回 2010年4月24日（於：大阪市内）

第2回 2010年12月24日（於：高等研）

第3回 2011年3月10日（於：大阪市内）

話題提供者：3名

小島 順彦 三菱商事株式会社取締役会長

西川 善文 株式会社三井住友銀行顧問
藪中 三十二 外務省顧問

その他の参加者：3名

岩田 一明 国際高等研究所フェロー／大阪大学・神戸大学名誉教授
藤田 和久 三菱商事株式会社法務部長
船山 徹 三菱商事株式会社業務秘書

2011年度：

第1回研究会では、国際ビジネスを中心に活躍する、3人の日韓の国際弁護士を話題提供者として迎え、国際シンポを開催した。出席者は23名で、大変活発で有意義な議論が展開された。

まず、第1日目（8月26日）の最初の話題提供者である川村明弁護士（国際法曹協会会長）から「交渉学—説得のロイヤリングスキル」というテーマで報告があった。

次いで、同じく話題提供者である崔公雄弁護士（大韓商事仲裁院仲裁CEOアカデミー院長）「韓国における交渉学の現状」というテーマで報告があった。

2日目は（8月27日）、最初に話題提供者の牛島信弁護士（牛島総合法律事務所代表）から、「弁護士の交渉—紛争の内と外」というテーマで報告があった。

ついで野村美明大阪大学教授を司会者として、川村弁護士、崔弁護士、牛島弁護士をパネリストとしてパネルディスカッションを行った。

第2回研究会では、労使交渉について実績を有する実務家による報告と交渉教育に優れた実績を有する大澤教授の報告を聞いて、質疑応答を行った。

まず、1日目（11月18日）に、話題提供者である下村雅一氏（パナソニック株式会社労政グループマネージャー）から、「パナソニックにおける労使交渉」というテーマで報告があった。

ついで2日目（11月19日）には、大澤恒夫教授から「ワークショップを中心とした相談・交渉・ADR教育の試み」というテーマで報告があった。

いずれも報告後、活発な質疑応答が行われた。

第3回研究会では、2012年2月17、18日に開催された。

まず、第1日目（2月17日）は、国際取引法全般に優れた実績を有する中央大学の柏木昇教授が「交渉と信頼」というテーマで報告があった。

ついで第2日目（2月18日）は、国際ビジネス実務とアメリカにおけるロースクールでの教育実績のある、話題提供者である伊藤忠の茅野みつる弁護士から、

「理論か実務か？：米国ロースクールのカリキュラムにおける交渉実務の重要性」というテーマで報告があった。

いずれも報告後、活発な質疑応答が行われた。

研究会開催実績：

第1回 2011年8月26日～27日 （於：高等研）

第2回 2011年11月18日～19日 （於：高等研）

第3回 2012年2月17日～18日 （於：高等研）

話題提供者：5名

牛島 信 牛島総合法律事務所代表弁護士
川村 明 国際法曹協会会長／アンダーソン・毛利・友常法律事務所パートナー弁護士
崔 公雄 大韓商事仲裁院仲裁CEOアカデミー院長
下村 雅一 パナソニック株式会社労政グループグループマネージャー
茅野 みつる 伊藤忠商事株式会社コーポレートカウンスル

その他の参加者：9名

荒牧 裕一	荒牧総合研究所経営コンサルタント
岩田 一明	大阪大学・神戸大学名誉教授
小野木 尚	大阪大学大学院法学研究科博士後期課程 2年
川端 晴美	参天製薬株式会社企画本部知的財産グループ契約法務チーム
木下 富雄	京都大学名誉教授
田井 裕子	ガリバーズ・トラベル・エージェンシー株式会社
永井 亮一	日本通運株式会社大阪国際輸送支店
西嶋 聡	大阪大学大学院国際公共政策研究科博士前期課程 2年
橋本 佳奈	大阪大学大学院国際公共政策研究科博士前期課程

2012年度

まず、2012年度第1回研究会（8月24日）では、まず、平井亮輔京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授から、「熟議民主主義における交渉と妥協について」というテーマで報告があり、その後、活発な質疑応答が行われた。

ついで、話題提供者である、田中成明国際高等研究所副所長から、「法的紛争解決における交渉と議論（討論・討議）の関係について」というテーマで報告があった。この報告についても活発な質疑応答が行われた。

2012年度第2回研究会は、「交渉の基本文献紹介：Melissa L. Nelken, *Negotiation: Theory and Practice* (2nd ed. 2007)を参考に」という統一テーマで2日間にわたって行われた。

第1日（12月14日）は、まず、野村美明大阪大学大学院国際公共政策研究科教授と橋本佳奈大阪大学大学院国際公共政策研究科博士前期課程学生）から、「**Legal Negotiations: Background and Context**」に関連する文献の紹介があり、その後活発な質疑応答があった。

ついで高杉直同志社大学法学部教授から、「**Distributive Bargaining**」配分的交渉に関する文献の紹介があり、引き続き活発な質疑応答が行われた。

第2日（12月15日）は、まず、吉川英一郎（同志社大学商学部教授）と田井裕子（ガリバーズ・トラベル・エージェンシー株式会社社員）とが「**Integrative Bargaining**」統合的高層に関連する文献の紹介を行い、その後活発な質疑応答があった。

最後に、松岡博大阪大学名誉教授、金美善大阪大学大学院工学研究科助手、吉野博志同志社大学国際ビジネス法務研究センター嘱託研究員から、「**The Tension between Integrative and Distributive Bargaining**」配分的交渉と統合的交渉の緊張関係に関連する文献の紹介があり、その後活発な質疑応答があった。

2012年度第3回研究会は、3月22日（金）、23日（土）に帝塚山大学大阪サテライトで開催された。統一テーマとして、第2回研究会と同様、「交渉の基本文献紹介：Melissa L. Nelken, *Negotiation: Theory and Practice* (2nd ed. 2007)を参考に」という統一テーマで2日間にわたって行われた。会場は、帝塚山大学大阪サテライトであった。

第1日（3月22日）は、まず、野村美明大阪大学大学院国際公共政策研究科教授が、「**Psychological Aspects of Negotiation**」交渉の心理的側面に関する文献の紹介があり、その後活発な質疑応答があった。

ついで金美善大阪大学大学院工学研究科助手から、「**Culture and Gender in Negotiation**」交渉における文化とジェンダーに関する文献の紹介があり、その後活発な質疑応答があった。

高杉直同志社大学法学部教授から、「**The Lawyer-Client Relationship**」弁護士と依頼人の関係についての文献の紹介があり、その後活発な質疑応答があった。

第2日（3月23日（土））は、まず吉川英一郎（同志社大学商学部教授）とアラカキ大阪学院経営学部教授から、「**Ethical Issues in Negotiation**」交渉における倫理的問題に関する文献の紹介があり、その後活発な質疑応答があった。

ついで高杉直同志社大学法学部教授から、「**Mediation: Facilitated Negotiation**」に関する文献の

紹介があり、その後活発な質疑応答があった。

最後に、吉野博志同志社大学国際ビジネス法務研究センター嘱託研究員と田井裕子（ガリバーズ・トラベル・エージェンシー株式会社社員）とが「The Next Challenge: Multiparty Negotiation」に関する文献の紹介があり、その後活発な質疑応答があった。

研究会開催実績：

- 第1回 2012年8月24日（於：高等研）
- 第2回 2012年12月14日～15日（於：高等研）
- 第3回 2013年3月22日～23日（於：大阪市内）

話題提供者：4名

- | | |
|-------|------------------------|
| 荒牧 裕一 | 京都聖母女学院短期大学生活科学科准教授 |
| 田井 裕子 | ガリバーズ・トラベル・エージェンシー株式会社 |
| 橋本 佳奈 | 大阪大学大学院国際公共政策研究科博士前期課程 |
| 吉野 博志 | 帝塚山大学非常勤講師 |

その他の参加者：2名

- | | |
|-------|---------------|
| 岩田 一明 | 大阪大学・神戸大学名誉教授 |
| 木下 富雄 | 京都大学名誉教授 |

Achievement:

2010 fiscal year:

The main objective of this research project is to clarify what the research on Negotiation can contribute to construct a new world order, and to prevent and resolve various kinds of disputes successfully.

In 2010 fiscal year, we held three conferences on the subject of the Theory and Practice of Negotiation at International Institute for Advanced Studies.

2011 fiscal year:

In 2011 fiscal year, we held three conferences on the subject of the Theory and Practice of Negotiation at International Institute for Advanced Studies.

2012 fiscal year:

In 2012 fiscal year, we held three conferences on the subject of the Theory and Practice of Negotiation at International Institute for Advanced Studies.

研究活動総括：

当初に掲げた研究目的、研究計画に基づき3年間で、9回の研究会を開催した。

いずれの研究会も原則として、2日間とし（研究会の延べ日数は17日間である）、高等研において開催された。なお、最後の研究会のみが帝塚山大学大阪サテライトで開催された。報告は、メンバーである研究者の報告を中心としたが、とくに初年度を中心に、話題提供者として、著名な実業家や外交官、弁護士などの交渉の達人に話をして頂いた。研究者と実務家のコラボレーションとして、これはきわめて有意義であった。3年間の個別報告総数は、25件、そのうち研究会メンバーによるものは17件、外部の話題提供者によるものは8件であった。

また2年目には、国際ビジネスを中心に活躍する、3人の日韓の国際弁護士を話題提供者として迎え、国際シンポジウムという形で開催することができたことも特筆すべきであると考えられる。

3年目は、内部の研究者による個別報告を中心としたが、第2回・3回研究会では、アメリカを中心とする交渉の基本文献紹介を行い、交渉学の最近の研究状況を取り上げた。なお、この交渉の基本文献紹介は、代表者が主宰する帝塚山大学国際ビジネス法務塾の交渉研究会で、毎月行っている研究報告の一部を基礎としている。

高等研における3年間の研究活動は終了した。残された課題も多いが、この活動は、引き続き各研究者により継続的に行われるほか、上記研究会によって受け継がれることとなっている。したがって本研究の研究成果も、別の形で公表されることとなる。

以下には、当初の研究目的、研究方法、研究計画と関連させて、その成果をより詳しく検証するにする。

まず、本研究の目的は、交渉学が新しい世界を構築し、紛争を予防、解決するために、何をなし得るかを明らかにすることを目的とし、その目的を達成するための新しい交渉理論・交渉方法を提案する基礎的な原理をも明らかにしようとするものであった。この点は、2010年度の第1回研究会で研究代表者から「研究プロジェクトの目的・趣旨・研究方法・計画」をテーマに本研究プロジェクトの基本事項について説明があり、研究会参加者に周知されたと考える。

研究計画、研究方法としては、まず、現在有力に提唱されている交渉理論を、主として対立競争型か問題解決型かという視点から取り上げ、その特徴、意義、実践性などについての評価、検討をおこなう。特にハーバード・ロー・スクールのハーバード交渉学研究所で開発された「原則立脚型交渉法」に考慮を払いたいとした。この点は、3年間の研究期間中、常に意識され、議論の対象となった。とくに2012年度第2回研究会では、「交渉の基本文献紹介：Melissa L. Nelken, Negotiation: Theory and Practice (2nd ed. 2007)を参考に」という統一テーマで行われた研究会で中心的に議論され、十分な成果があげられた。とりわけ、「Distributive Bargaining」（配分的交渉）、「Integrative Bargaining」（統合的交渉）、「The Tension between Integrative and Distributive Bargaining」（配分的交渉と統合的交渉の緊張関係）という3つの報告で集中的に取り上げられた。

交渉学においては、交渉方法は理論と不可分の関係にある。そこで、本研究でも、友好関係を損なわずに、賢明な合意に到達する、交渉方法はどのようなものかを検討し、新しい交渉理論・交渉方法の提案をすることを目標の一つとした。このような交渉学の理論的側面を取り扱い、学術の芽を育てることを意図した研究報告としては、野村美明大阪大学教授「交渉とディベートと対話」、中央大学の柏木昇教授による「交渉と信頼」、平井亮輔京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授から、「熟議民主主義における交渉と妥協について」、田中成明国際高等研究所副所長から、「法的紛争解決における交渉と議論（討論・討議）の関係について」などが注目される主要な成果である。

交渉教育と人材養成も重要な本研究の課題であった。交渉力を高めるにはどうすればよいか。経験によって学ぶことはできるが、系統的な学習も必要である。効果的な交渉教育、人材養成のあり方について検討したいとした。この点の成果としては、ダニエル・H・フット東京大学教授による「アメリカのロースクール教育における交渉教育の位置づけおよびハーバード・ロー・スクールのカリキュラム改革」、森下哲朗上智大学教授による「法学部・法科大学院における交渉教育・研究の現状と課題」、大澤恒夫横浜桐蔭大学教授による「ワークショップを中心とした相談・交渉・ADR教育の試み」、さらには話題提供者である伊藤忠の茅野みつる弁護士による「理論か実務か？：米国ロースクールのカリキュラムにおける交渉実務の重要性」などがその成果であり、学術における芽を育てるといふ十分な成果があげられたといえよう。

交渉における理論と実践の融合も本研究の重要な課題であった。交渉は、外交交渉、ビジネス交渉、労使交渉、家族間交渉など様々な形態をとり、また用いられる場面も様々である。理論としての交渉学は、一般論としての普遍性をもつとともに、それぞれの交渉形態に柔軟に対応できるものであることが必要であり、何よりも実際の交渉でうまく機能するものでなければならない。この点を明らかにしたいとした。

交渉における理論と実務の融合という観点からいっても、本研究は、とりわけ、交渉の達人といわれる実務家による講演を提供することがその当初の計画の特徴とするものであった。この点については、まず話題提供者である西川善文三井住友銀行顧問による「難しい交渉を成功させるために」、同

じく話題提供者の小島順彦三菱商事会長の「国際ビジネス交渉について」は、ともに著名な経済人による交渉の達人の講演として注目すべき成果であった。また外交交渉については、話題提供者である藪中三十二外務省顧問（前外務事務次官）「外交交渉の要諦」も同様であり、さらに労使交渉については、話題提供者である下村雅一氏（パナソニック株式会社労政グループマネージャー）による「パナソニックにおける労使交渉」などがその主要な成果である。

2年目に、国際ビジネスを中心に活躍する、3人の日韓の国際弁護士を話題提供者として迎えて国際シンポジウムとして開催された研究会もこのような観点から評価することができよう。最初の話題提供者である川村明弁護士（国際法曹協会会長）による、「交渉学—説得のロイヤリングスキル」、次いで、同じく話題提供者である崔公雄弁護士（大韓商事仲裁院仲裁 CEO アカデミー院長）による「韓国における交渉学の現状」、さらに話題提供者の牛島信弁護士（牛島総合法律事務所代表）による「弁護士の交渉—紛争の内と外」というテーマで個別報告と、それに続くパネルディスカッションは、理論と実務の融合、研究者と実務家のコラボレーションの観点からいっても十分な成果であろう。

最後に、諸学の総合としての交渉学の可能性の探求も研究計画の一つの柱であった。交渉学は総合的な学であり、法学、政策学、経営学、心理学、社会学、論理学、コミュニケーション論などの様々な学問の知見を総合的に取り入れる必要があるからである。この点については、2012年度最後の研究会で十分ではないが、部分的に検討された。「Psychological Aspects of Negotiation」（交渉における心理学的側面）、「Culture and Gender in Negotiation」（交渉における文化とジェンダー）に関する報告などがそれである。

Whole Achievement:

The main objective of this research project was to clarify what the research on Negotiation can contribute to construct a new world order, and to prevent and resolve various kinds of disputes successfully.

In 2010 fiscal year, we held three conferences on the subject of the Theory and Practice of Negotiation at International Institute for Advanced Studies.

In 2011 fiscal year, we held three conferences on the subject of the Theory and Practice of Negotiation, including one international symposium

In 2012 fiscal year, we held three conferences on the subject of the Theory and Practice of Negotiation.

In total, during these 3 years, we held 9 conferences, including 17 reports by our member researchers and 9 reports by outside speakers.

国際高等研究所
研究プロジェクト「交渉学の可能性—新しい世界の関係構築と紛争の予防のために」
2010年度第1回幹事会 プログラム

開催日時：2010年4月24日（土） 17：00～19：00

開催場所：リーガロイヤルホテル大阪

研究代表者：松岡 博 国際高等研究所フェロー
帝塚山大学法政策学部教授／大阪大学名誉教授

担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出席者：(3人)

研究代表者 松岡 博 国際高等研究所フェロー
帝塚山大学法政策学部教授／大阪大学名誉教授

参加研究者 高杉 直 同志社大学法学部教授
(2人) 野村 美明 大阪大学大学院国際公共政策研究科教授

プログラム

4月24日（土）

17：00 平成22年度計画及び研究の進め方

19：00 終了

国際高等研究所
研究プロジェクト「交渉学の可能性—新しい世界の関係構築と紛争の予防のために」
2010年度第1回研究会 プログラム

開催日時：2010年 7月2日（金） 14：00～17：00
7月3日（土） 10：00～12：00

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：松岡 博 国際高等研究所フェロー
帝塚山大学法政策学部教授／大阪大学名誉教授

担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出定者：（11人）

研究代表者 松岡 博 国際高等研究所フェロー
帝塚山大学法政策学部教授／大阪大学名誉教授

参加研究者 D.M.アラカキ 大阪学院大学経営学部教授
（9人） 大澤 恒夫 横浜桐蔭大学法科大学院教授
柏木 昇 中央大学法科大学院教授

金 美善 大阪大学大学院工学研究科特任助教
高杉 直 同志社大学法学部教授
田中 成明 国際高等研究所副所長
** 野村 美明 大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
ダニエル・H・フット

国際高等研究所企画委員／東京大学大学院法学政治学研究科教授
吉川 英一郎 大阪学院大学大学院法務研究科教授

**：スピーカー

話題提供者 西川 善文 株式会社三井住友銀行顧問
（ゲストスピーカー）
（1人）

プログラム

7月2日（金）

14：00 松岡博：研究プロジェクトの目的・趣旨・研究方法・計画など

15：00～17：30 話題提供者：野村 美明 大阪大学大学院国際公共政策研究科教授

演題「交渉とディベートと対話

ー理論と実践の循環をめざして」

7月3日（土）

10：00～12：00 話題提供者：西川 善文 株式会社三井住友銀行顧問

演題「難しい交渉を成功させるには」

配布資料

- ・ 野村 美明「交渉とディベートと対話ー理論と実践の循環をめざして」

国際高等研究所
研究プロジェクト「交渉学の可能性—新しい世界の関係構築と紛争の予防のために」
2010年度第2回研究会 プログラム

開催日時：2010年 11月26日（金） 14：00～17：40
11月27日（土） 10：00～12：00

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：松岡 博 国際高等研究所フェロー
帝塚山大学法政策学部教授／大阪大学名誉教授

担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出席者：（12人）

研究代表者 松岡 博 国際高等研究所フェロー
帝塚山大学法政策学部教授／大阪大学名誉教授

参加研究者 D.M.アラカキ 大阪学院大学経営学部教授
（10人） 大澤 恒夫 横浜桐蔭大学法科大学院教授
金 美善 大阪大学大学院工学研究科特任助教
高杉 直 同志社大学法学部教授
田中 成明 国際高等研究所副所長
野村 美明 大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
平井 啓 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター助教

** ダニエル・H・フット
国際高等研究所企画委員／東京大学大学院法学政治学研究科教授

吉川 英一郎 同志社大学商学部准教授

岩田 一明 国際高等研究所フェロー／大阪大学・神戸大学名誉教授

**：スピーカー

話題提供者 藪中 三十二 外務省 顧問（前外務省事務次官）
（ゲストスピーカー）
（1人）

プログラム

11月26日（金）【国際高等研究所 セミナー1】

14：00 話題提供者： 藪中 三十二 外務省顧問（前外務省事務次官）
演題「外交交渉の要諦」・質疑応答

16：30 今後の予定について協議（次回研究会、国際シンポジウムの計画等）

17：40 終了

けいはんなプラザホテルへ移動

18：00 懇親会

11月27日（土）【国際高等研究所 セミナー1】

10：00 話題提供者： ダニエル・H・フット 国際高等研究所企画委員／東京大学大学院
法学政治学研究科教授

演題「アメリカのロースクール教育における交渉教育の位置づけ
およびハーバード・ロースクールのカリキュラム改革」

12：00 終了

国際高等研究所
研究プロジェクト「交渉学の可能性—新しい世界の関係構築と紛争の予防のために」
2010年度第2回幹事会 プログラム

開催日時：2010年 12月 24日（金） 13：00～16：00

開催場所：国際高等研究所セミナー2（2F）

研究代表者：松岡 博 国際高等研究所フェロー
帝塚山大学法政策学部教授／大阪大学名誉教授

担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出席者：（3人）

研究代表者 松岡 博 国際高等研究所フェロー
帝塚山大学法政策学部教授／大阪大学名誉教授

参加研究者 高杉 直 同志社大学法学部教授

（2人） 野村 美明 大阪大学大学院国際公共政策研究科教授

プログラム

12月24日（金）【国際高等研究所 セミナー2】

13：00 今後の予定について協議

1. 2月25日・26日の研究会について
2. 来年度の計画について

16：00 終了

国際高等研究所
研究プロジェクト「交渉学の可能性—新しい世界の関係構築と紛争の予防のために」
2010年度第3回研究会 プログラム

開催日時：2011年 2月25日（金） 14：00～17：30
2月26日（土） 10：00～14：00

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：松岡 博 国際高等研究所フェロー
帝塚山大学法政策学部教授／大阪大学名誉教授

担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出席者：（14人）

研究代表者	松岡 博	国際高等研究所フェロー 帝塚山大学法政策学部教授／大阪大学名誉教授
参加研究者 （12人）	D.M.アラカキ	大阪学院大学経営学部教授
	大澤 恒夫	桐蔭横浜大学法科大学院教授
	柏木 昇	中央大学法科大学院教授
	高杉 直	同志社大学法学部教授
	田中 成明	財団法人国際高等研究所副所長
	野村 美明	大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
	平井 亮輔	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
	** 森下 哲朗	上智大学法学研究科教授
	吉川 英一郎	同志社大学商学部准教授
		岩田 一明
	藤田 和久	三菱商事株式会社法務部長
	船山 徹	三菱商事株式会社業務秘書

**：スピーカー

話題提供者 小島 順彦 三菱商事株式会社取締役会長
(ゲストスピーカー)
(1人)

プログラム

2月25日（金）【国際高等研究所 セミナー1】

14：00 話題提供者： 森下 哲朗 上智大学法学研究科教授
演題「法学部・法科大学院における交渉教育・研究の現状と課題」
・質疑応答

16：30 終了予定（延長の可能性あり）

けいはんなプラザホテルへ移動後、懇談会

2月26日(土)【国際高等研究所 セミナー1】

10:00 話題提供者: 小島 順彦 三菱商事株式会社取締役会長
演題「国際ビジネス交渉について」・質疑応答

12:30 昼食

13:30 来年度の計画について

14:30 終了予定

配布資料: 「法曹養成における交渉教育」ーハーバード・ロースクールでの教育を参考にー 他
「国際ビジネス交渉について」

国際高等研究所
研究プロジェクト「交渉学の可能性—新しい世界の関係構築と紛争の予防のために」
2010年度第3回幹事会 プログラム

開催日時：2011年 3月10日（金） 15：30～17：30

開催場所：帝塚山大学大阪サテライト 404号室
〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53 キャンパス・イノベーションセンター4階
<http://www.tezukayama-u.ac.jp/satellite/index.html>

研究代表者：松岡 博 国際高等研究所フェロー
帝塚山大学法政策学部教授／大阪大学名誉教授
担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出席者：(4人)

研究代表者	松岡 博	国際高等研究所フェロー 帝塚山大学法政策学部教授／大阪大学名誉教授
参加研究者 (3人)	高杉 直 野村 美明 吉川 英一郎	同志社大学法学部教授 大阪大学大学院国際公共政策研究科教授 同志社大学商学部准教授

プログラム

3月10日（木）

- 15：30 来年度の計画について協議
1. 8月の研究会について
 2. 来年度の計画について

17：30 終了

国際高等研究所
研究プロジェクト「交渉学の可能性—新しい世界の関係構築と紛争の予防のために」
2011年度第1回（通算第4回）研究会 プログラム

開催日時：2011年 8月26日（金） 14：00～17：30
8月27日（土） 10：00～14：30

開催場所：国際高等研究所 216（2F）

研究代表者：松岡 博 大阪大学名誉教授／帝塚山大学名誉教授
担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出席者：（23人）

研究代表者 **	松岡 博	大阪大学名誉教授／帝塚山大学名誉教授
参加研究者	大澤 恒夫	桐蔭横浜大学法科大学院教授
（メンバー）	柏木 昇	中央大学法科大学院教授
（10人）	金 美善	大阪大学大学院工学研究科特任助教
	高杉 直	同志社大学法学部教授
	田中 成明	国際高等研究所副所長
**	野村 美明	大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
	服部 高宏	京都大学大学院法学研究科教授
	平井 啓	大阪大学大型教育プロジェクト支援室統括マネージャー補佐
	平井 亮輔	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
	吉川 英一郎	同志社大学商学部准教授

**：スピーカー

話題提供者	牛島 信	牛島総合法律事務所代表弁護士
（ゲストスピーカー）	川村 明	国際法曹協会会長／アンダーソン・毛利・友常法律事務所
（3人）		パートナー弁護士
	崔 公雄	大韓商事仲裁院仲裁 CEO アカデミー院長

その他参加者	岩田 一明	国際高等研究所チーフリサーチフェロー／
（9人）		大阪大学・神戸大学名誉教授
	木下 富雄	京都大学名誉教授
	荒牧 裕一	荒牧総合研究所 経営コンサルタント
	小野木 尚	大阪大学大学院法学研究科博士課程
	川端 晴美	参天製薬株式会社企画本部知的財産グループ契約法務チーム
	田井 裕子	ガリバーズ・トラベル・エージェンシー株式会社
	永井 亮一	日本通運株式会社大阪国際輸送支店
	西嶋 聡	大阪大学大学院国際公共政策研究科博士課程
	橋本 佳奈	大阪大学大学院国際公共政策研究科博士課程

プログラム

8月26日(金)【国際高等研究所 216号室】

司会 松岡 博 大阪大学名誉教授／帝塚山大学名誉教授

14:00 個別報告1

話題提供者: 川村 明 国際法曹協会会長・弁護士

演題「交渉学—説得のローヤリングスキル」・質疑応答

15:30 休憩

15:45 個別報告2

話題提供者: 崔 公雄 大韓商事仲裁院仲裁CEOアカデミー院長

演題「韓国における交渉学の現状」・質疑応答

17:30 終了

8月27日(土)【国際高等研究所 216号室】

司会 野村 美明 大阪大学大学院国際公共政策研究科教授

10:00 個別報告3

話題提供者: 牛島 信 牛島総合法律事務所代表弁護士

演題「弁護士の交渉—紛争の内と外」・質疑応答

11:30 昼食

13:00 パネルディスカッション

司会: 野村 美明・川村 明・崔 公雄・牛島 信

14:30 終了

配布資料:

- 交渉学の可能性—説得のローヤリング・スキル 川村 明
- 「自由と正義」8月号(抜粋記事)
- 韓国における交渉学の発展 崔 公雄(訳: 金 美善)
- 弁護士の交渉—紛争の内と外 牛島 信
- The Lawyers 8月号(抜粋記事)

国際高等研究所
研究プロジェクト「交渉学の可能性—新しい世界の関係構築と紛争の予防のために」
2011年度第2回（通算第5回）研究会

開催日時：2011年 11月18日（金） 13：30～15：30
11月19日（土） 10：00～13：00

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：松岡 博 大阪大学名誉教授／帝塚山大学名誉教授
担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出席者：（8人）

研究代表者	松岡 博	大阪大学名誉教授／帝塚山大学名誉教授
参加研究者	D.M.アラカキ	大阪学院大学経営学部教授
（メンバー）	** 大澤 恒夫	桐蔭横浜大学法科大学院教授
（5人）	高杉 直	同志社大学法学部教授
	田中 成明	国際高等研究所副所長
	野村 美明	大阪大学大学院国際公共政策研究科教授

**：スピーカー

話題提供者 下村 雅一 パナソニック株式会社労政グループ グループマネージャー
（ゲストスピーカー）
（1人）

その他参加者 岩田 一明 大阪大学・神戸大学名誉教授
（1人）

プログラム

11月18日(金)【国際高等研究所 セミナー1】

13:30 個別報告1

話題提供: 下村 雅一 パナソニック株式会社労政グループ
グループマネージャー

演題「パナソニックにおける労使交渉について」・質疑応答

15:30 終了

11月19日(土)【国際高等研究所 セミナー1】

10:00 個別報告2

話題提供: 大澤 恒夫 桐蔭横浜大学法科大学院教授

演題「ワークショップを中心とした相談 - 交渉 - ADR 教育の試み」
・質疑応答

12:00 昼食

13:00 終了

配布資料: レジюме「パナソニックにおける労使交渉について」 下村 雅一

「ワークショップを中心とした相談-交渉-ADR 教育の試み」 大澤 恒夫

参考資料 ロイヤリング

振り返りシート

ミディエイション・交渉教育の実践

The Lawyers October 2011 抜粋記事

国際高等研究所
研究プロジェクト「交渉学の可能性—新しい世界の関係構築と紛争の予防のために」
2011年度第3回（通算第6回）研究会 プログラム

開催日時：2012年 2月17日（金） 14：00～16：30
2月18日（土） 10：00～13：30

開催場所：国際高等研究所セミナー1（1F）

研究代表者：松岡 博 大阪大学名誉教授／帝塚山大学名誉教授
担当所長・副所長：田中 成明 副所長

出席者：（10人）

研究代表者	松岡 博	大阪大学名誉教授／帝塚山大学名誉教授
参加研究者 **	柏木 昇	中央大学法科大学院教授
（メンバー）	高杉 直	同志社大学法学部教授
（7人）	田中 成明	国際高等研究所副所長
	野村 美明	大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
	平井 亮輔	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
	森下 哲朗	上智大学法学研究科教授
	吉川 英一郎	同志社大学商学部准教授

**：スピーカー

話題提供者 茅野 みつる 伊藤忠商事株式会社コーポレートカウンスル
（ゲストスピーカー）
（1人）

その他参加者 橋本 佳奈 大阪大学大学院国際公共政策研究科博士課程
（1人）

プログラム

2月17日（金）【国際高等研究所 セミナー1】

14:00 話題提供者： 柏木 昇 中央大学法科大学院教授
演題「交渉論における信頼」・質疑応答

16:30 終了

2月18日（土）【国際高等研究所 セミナー1】

10:00 話題提供者： 茅野 みつる 伊藤忠商事株式会社コーポレートカウンスル
演題「理論か実務か？：
米国ロースクールのカリキュラムにおける交渉実務の重要性」・質疑応答

12:30 昼食

13:00 来年度の計画について

13:30 終了

配布資料： 「交渉論における信頼」
「理論か実務か？：米国ロースクールのカリキュラムにおける交渉実務の重要性」

国際高等研究所
研究プロジェクト「交渉学の可能性—新しい世界の関係構築と紛争の予防のために」
2012年度第1回（通算第7回）研究会 プログラム

日 時：2012年 8月 24日（金） 13：30～17：30

場 所：国際高等研究所セミナー1（1F）

出席者：（11人）

研究代表者	松岡 博	大阪大学名誉教授／帝塚山大学名誉教授
参加研究者	大澤 恒夫	桐蔭法科大学院教授
	金 美善	大阪大学大学院工学研究科特任助教
	高杉 直	同志社大学法学部教授
**	田中 成明	国際高等研究所副所長
	野村 美明	大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
	服部 高宏	京都大学大学院法学研究科教授
**	平井 亮輔	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
	吉川 英一郎	同志社大学商学部教授

**：スピーカー

その他参加者	岩田 一明	大阪大学・神戸大学名誉教授
	木下 富雄	京都大学名誉教授

プログラム

- 13：30 話題提供者：平井 亮輔 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
演題「熟議民主主義における交渉と妥協について」
質疑応答
- 15：30 話題提供者：田中 成明 国際高等研究所副所長
演題「法的紛争解決における交渉と議論（討論・討議）の関係について」
質疑応答
- 17：30 終了

国際高等研究所
研究プロジェクト「交渉学の可能性—新しい世界の関係構築と紛争の予防のために」
2012年度第2回（通算第8回）研究会 プログラム

日 時：2012年12月14日（金） 13：00～17：00
12月15日（土） 10：00～15：30

場 所：国際高等研究所セミナー1（1F）

出席者：（12人）

研究代表者	** 松岡 博	大阪大学／帝塚山大学名誉教授
参加研究者	D.M.アラカキ	大阪学院大学経営学部教授
	大澤 恒夫	桐蔭法科大学院教授
	** 金 美善	大阪大学大学院工学研究科特任助教
	** 高杉 直	同志社大学法学部教授
	田中 成明	財団法人国際高等研究所副所長
	** 野村 美明	大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
	平井 亮輔	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
	** 吉川 英一郎	同志社大学商学部教授

**：スピーカー

話題提供者	田井 裕子	ガリバーズ・トラベル・エージェンシー株式会社
	橋本 佳奈	大阪大学大学院国際公共政策研究科博士前期課程
	吉野 博志	同志社大学国際ビジネス法務研究センター嘱託研究員

プログラム

演題：「交渉の基本文献紹介：Melissa L. Nelken, Negotiation: Theory and Practice (2nd ed. 2007) を参考に」

12月14日（金）

13：00 「Legal Negotiations: Background and Context」（報告：野村・橋本）

15：00 「Distributive Bargaining」（報告：高杉）

17：00 終了

12月15日（土）

10：00 「Integrative Bargaining」（報告：吉川・田井）

12：00 昼食

13：00 「The Tension between Integrative and Distributive Bargaining」

（報告：松岡・金・吉野）

15：30 終了